

# どろんどろんと コミュニケーション



## 感謝のひびく

Vol.131

このコラムも最後となりまして。つたない文章を読んでいただいた皆様にお礼を申し上げます。さて、57歳で市長に就任し、夢中でやっているうちに12年の歳月が過ぎてしまいました。どんな物事にも終わりがあります。だから、自分が退任するということが納得はしているのですが、いろいろなそとしてたくさんの出来事があったにもかかわらず、振り返ってみると、その時間の経過の早さに驚かされます。一方、矛盾するかもしれませんが、この12年間は私にとつて、とても充実した幸せな日々でした。いやな思い出は忘れましょう。良い思い出を携えてこれからの人生を生きていこうと思います。

私は本当にラッキーな男です。大地震と津波が心配されながらも、やってきませんでした。定期船の事故や市役所を震撼させるような事故もなく、大事なイベントの日に雨にたたられることさえ、この12年間ありませんでした。まず神様に感謝しなければなりません。実直に、勤勉に支えてくれた職員のみなさん、緊張の中にも協力していただいた議会のみなさん、そして何よりも、ご理解ご協力を賜った市民のみなさんに対する感謝のひとことしかありません。

これまで、入湯税の導入、過疎債の許可、ふるさと納税の増加などの幸運に恵まれ、財政的に少し持ち直した感があります。しかし鳥羽市の未来については決して樂觀はできないと思います。日本の社会自体が縮小傾向にあるからです。私たちが団塊の世代が、社会に貢献できなくなってきたとき、ちよつと困るかもしれない。しかし、鳥羽は他の観光地に比べても、とても高いポテンシャルを持つています。美味しい食材、伊勢神宮の存在とご遷宮、世界に誇る景観、今では温泉まで戦力に加わりました。このポテンシャルを生かして、みんなが知恵を出し合えば鳥羽市の発展は可能でしょう。

私の市長就任2か月後に生まれた最初の孫を先頭に、九人にまで増えた孫たちを大事に見守りながら、人生の最終章を進みたいと思います。では何をしたいかということですが、家の裏山が今は獣害で荒れてしまっています。この裏山をぼちぼち改良して、枝垂桜の山にしていきたいと考えています。身延山久遠寺の枝垂桜をヒントにそんなことを思いつきました。これから鹿たちとの戦いです。もし、うまく桜が咲くようになったら、ぜひ見に来てください。私がいなくなっても桜の木は残るでしょう。市民の皆様、本当に長い間ありがとうございました。皆様のご多幸をお祈りいたします。

次に「疑問を持つ」ことです。常に疑問を持っている子どもは、時折、びつくりするようなことを聞いてきます。そこには本質が隠されていたりします。物事に対して当たり前と想ってしまったら、それ以上前には進みません。なぜと疑問を持った瞬間に今までと違った視点でみえてきます。また、「視点・考え方を置き換える」ことも有効だと思えます。例えば「コップに水が半分しか入っていない」のか「半分もはいつている」と考えるのでは、結論が違ってきます。

この他にも「歴史に学んでみる」「物事の背景を想像してみる」「客観的にみるためにデータから読み解く」など、たくさん方法はあります。

さまざまな問題の本質を見抜くことはたやすいことではありませんが、考えるということは、解決に向けた一歩だと思えます。



本質を見抜く

さまざまな報道番組を見てみると、物事の本質を見抜き、鋭い指摘を行う人がいます。なぜ、それができるのでしょうか。本質を見抜く力はどういうように磨くのでしょうか。知識の量が豊富で、精通していることは当然のこと、問題点を見つけ出し客観的・多角的に物事が見える。それをまとめ論理的に説明できる。なんだか、途方もない作業であり、本質を見抜くなんて無理だと思えてしまいます。

本質を見抜くためのはじめは「好きこそ物の上手なれ」だと思えます。誰でも、好きなことや経験していること、興味を持ったことは、本を読んだり、講習に参加するなど、積極的に知識を取り入れます。そうすることで的確に物事を判断することができ

人権文化の花を咲かせよう

Vol.157